

本リリースは厚生労働記者会に配布しております。

報道関係各位

平成27年6月5日
一般社団法人 END ALS

難病 ALS 患者当事者による疾病啓発プロジェクト “ONE TRY ONE LIFE”
日本初※！ ALS 患者自らが企画し出演する CM を制作
ALS の認知理解促進目指す
アーティストの AI が友情出演

※一般社団法人 END ALS 調べ

一般社団法人 END ALS（代表理事：藤田勝正、所在地：東京都世田谷）では、国指定の難病、筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者自らが企画し出演する、日本初※の ALS 啓発 CM を制作します。創設者で ALS 患者の広告プランナー藤田正裕（通称ヒロ）が企画・出演。世界 ALS デーの6月21日に一般公開を目指しています。

ヒロの友人でアーティストの AI が CM の趣旨に賛同し友情出演しています。

この CM 制作・公開は、ALS の認知理解促進のためのプロジェクト “ONE TRY ONE LIFE – ROAD TO END ALS – (ワントライ ワンライフ – ロード トゥ エンド エーエルエス –)” の一環です。プロジェクトでは、すべての ALS 患者が望む治療を受け、ALS がこの世から無くなることを目指し、ヒロが中心となり今後様々なコミュニケーション活動を行って参ります。

※一般財団法人 END ALS 調べ

《コマーシャルの特徴》

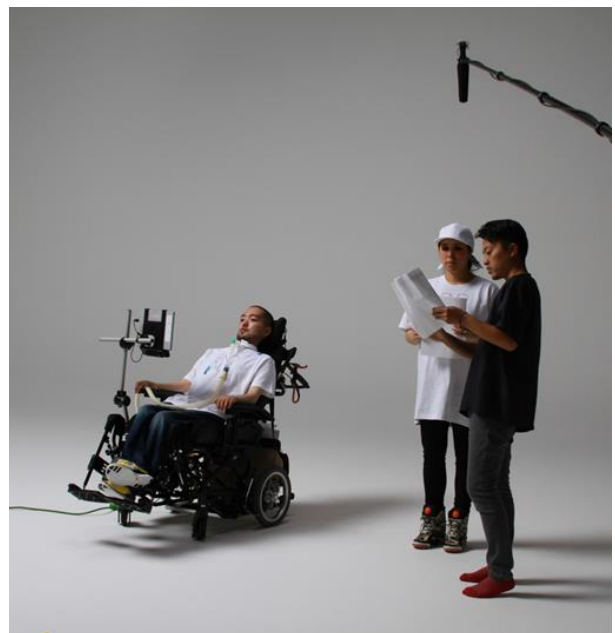
- ・日本初 ALS 患者当事者が企画・出演する疾病啓発 CM。(演出コンテ添付)
- ・アーティストの AI さんが CM に友情出演。
- ・6月21日世界 ALS デーに CM 公開予定。

完成した CM を6月21日以降、無償で放送していただけるメディアを募集しています。ご賛同いただける方はご連絡ください。

- ・CM 制作予算は、寄付を集めるファンディングサイト、一般財団法人ジャパングIVINGの協力を得てクラウドファンディングで募りました。

募集期間2015年5月4日～6月4日寄付：301名、3,912,300円

<http://japangiving.jp/projects/2207>



—CM 撮影風景—
(左からヒロ、AI、柿本ケンサク監督)

※ONE TRY ONE LIFE プロジェクトでは、ALS の理解を促す情報発信と、世界中から知恵や知識を集約する Web サイト (<https://end-als.com/onetryonelife/>) も5月3日に開設。プロジェクトのコンテンツは順次拡充、公開して参ります。

プロジェクトロゴ



プロジェクト立ち上げ趣旨

昨年夏、ALS 啓発を目的として ALS アイスバケツチャレンジが流行しました。しかし、この病気の理解が進んでいるとはいえません。

NHK のアンケート調査によれば、アイスバケツチャレンジは回答者全体の6割に認知される一方で、ALS という病気を「よく知っている」と高い理解を示した人は全体の約2割にしか及ばない状況です。(出典：NHK ホームページ)

ALS はここ数年で海外の治験において劇的な改善事例が報告されました。治る見込みがないとされている ALS 患者にとって、ささやかな希望がみえてきました。しかし、いったいどのようなプロセスを経ればできるだけ早くそれらの治療を受けられるのか、それはいつになるのか、費用はどれくらいかかるのか、誰にお願いしたら良いか、日本の全ての ALS 患者にとってわからないことばかりです。

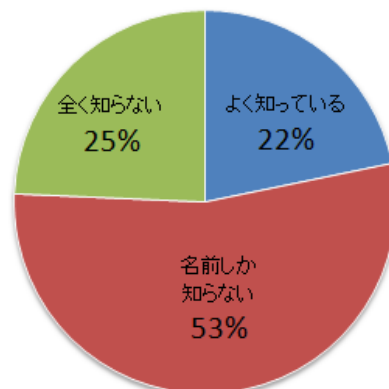
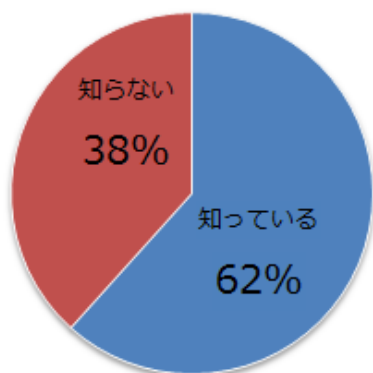
一般社団法人END ALS創設者であり患者の藤田正裕(ヒロ)は、現役の広告プランナーという職業スキルを活かして日本中、世界中の人々にどうしたらよいか呼びかけます。

「このインターネット時代、ALS の理解が進めば最先端の研究者や医療業界関係者、政治に関わっている方など世界中の様々な方々から知恵や知識が集められるかもしれない。そしてこの活動はALSだけでなく多くの難病患者の課題解決のヒントになるかもしれない」。

病状が進行し、すべてのコミュニケーションができなくなる可能性が高まっているヒロが、残り少ないかもしれない時間とエネルギーを、現在の ALS 患者だけでなくこれから ALS となる患者のためにも、当プロジェクトに全力を投下して参ります。

アイスバケツチャレンジをご存じですか？

ALS(筋萎縮性側索硬化症)という病気をご存じですか



アイスバケツチャレンジ認知

ALS認知・理解

出典：NHK ホームページ (約900人へのアンケート結果)

プロジェクトの進行イメージ



ALS患者 藤田正裕 (ヒロ) のご紹介

藤田正裕 (ふじた・まさひろ、通称ヒロ)

(株)マッキンゼーエリクソン、プランニングディレクター／

ONE TRY ONE LIFE プロジェクトリーダー／

一般社団法人END ALS創設者

1979年東京生まれ (35歳)。2004年4月(株)マッキンゼーエリクソン入社、戦略プランニング局で、PR/インフルエンサーマーケティング、ブランド・コミュニケーション戦略の企画・立案を担当。

2010年11月に筋萎縮性側索硬化症 (ALS) と診断。翌年3月から車椅子生活に入り、2012年1月に人工呼吸器。そして、2013年1月に気管切開し、声を失った。以来、視線とまばたきでコンピュータを操作する「トビー・アイトラッキング (視線伝達機器)」システムを利用して、広告会社での仕事や END ALS の活動等を行っている。著書「99% ありがとう ALSにも奪えないもの」を2013年11月に出版。



ALSとは

筋萎縮性側索硬化症 (ALS、別名: ルー・ゲーリック病) は身体の感覚や知能、視力や聴力、内蔵機能は健全のまま、手足、喉、舌などの身体中の筋肉や呼吸に必要な筋肉が徐々に衰えていく難病です。発症原因は不明で、病状の進行が極めて速く、発症からのおおよその余命は2年から5年です。誰にでもおこりうる病気で治療法は未だ見つかっていません。日本で治療を待つ患者が約9200名です。病状の進行により、大半の場合、最終的には目しか動かなくなり、それが最後のコミュニケーション手段となります。中には目も動かなくなり、身体中のすべての筋肉が動かなくなることもあり、その状態は Totally Locked-in State (TLS) …「完全な閉じ込め状態」と言われています。ヒロは今、TLSの恐怖と戦っています。

一般社団法人END ALSのご紹介

ALS 患者であり現役の外資系広告会社の広告プランナーである藤田正裕が2012年9月に立ち上げた一般社団法人。その活動目的は ALS の現状認知理解を広く世の中に促すこと。

ミッション

1) 治療法の確立に尽力する

1) ALS 患者が社会の一員でありつづけられるために、政府の医療政策の革新を促す

ONE TRY ONE LIFE プロジェクトはEND ALSの一環として活動します。

一般社団法人END ALS (英文表記: The END ALS Association)

END ALS

代表理事: 藤田勝正

創設者: 藤田正裕

所在地: 東京都世田谷区祖師谷 6-5-17

設立月日: 2012年9月3日

<https://end-als.com/>

AI ご紹介

L.A 生まれ。鹿児島育ち。ゴスペルワイアーで鍛えた本格的な歌唱力。完璧な英語バイリンガルでラップもこなせるストリート感覚。L.A.アート・スクールで学んだダンス・センス。ソウル、R&B、ヒップホップ、ダンスと全要素を横断する“QUEEN OF HIP HOP SOUL”シンガー、それが AI。 <http://www.aimusic-ai.tv>

プロジェクトメンバーについて

当プロジェクトは、ヒロの趣旨に賛同したメンバーがサポートをしており、通常の仕事では一緒に取り組むことがない競合会社のクリエイターをはじめとして、Web 制作会社など様々な企業の人間が会社の壁を越えてボランティアで協同しています。

ONE TRY ONE LIFE -ROAD TO END ALS- 主要プロジェクトメンバー

藤田 正裕 (ヒロ) プロジェクトリーダー、プランニングディレクター

以下順不同 (名前/所属)

上原 喜光 ALSコミュニケーション支援委員会代表

柿本 ケンサク 演出家

中村 猪佐武 (株) マッキャンエリクソン

尾崎 千春 //

津田 裕 //

吉富 亮介 //

折茂 彰弘 //

斎藤 優姫 //

小池 秀和 (株) モメンタムジャパン

大木 美代子 (株) マッキャン・ワールドグループ ホールディングス

佐藤 大吾 一般財団法人ジャパングィビング

宮本 聡 //

瀧上 雄介 (株) JG マーケティング
 伊藤 基 (株) アドホック
 野村 絵里奈 (株) ルクレ
 阿部 雅美 //
 林 裕史 (株) 電通
 岸 英輔 //
 川村 佳央 //
 阿部 広太郎 //
 村田 淳一 (株) AOI Pro.
 白澤 泰介 //
 五十嵐 円花 (株) ジェイ・ピーアール
 武藤 将胤 (株) 博報堂
 二荒 雅彦 //

※メンバーは2015年5月15日時点

－お問い合わせ先－

大木美代子

TEL : 03-3746-8550

Email : Miyoko.Ohki@mccannwg.com